

エビデンスベースの政策形成のための科学技術 イノベーション政策形成実務研修 2015

【趣旨】

文部科学省企画評価課では、エビデンスに基づく政策の企画立案・評価プロセスの改善と充実を図るため、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」を推進しています。

この一環として、政策担当者が、政策立案に携わる上で必要とされる実務に役立つ知識、評価・分析手法等についてコンパクトに学習できる研修プログラムの開発に着手いたしました。

政策担当者においては、最新の状況についての知識は得ている一方、諸テーマについての体系的・俯瞰的な知見、理論的・歴史的背景に関する知見、計量分析の理解が不十分な場合が少なくありません。

そこで、本プログラムでは、科学技術イノベーション政策における政策立案の実務に資するため、最低限必要となる知識を短期間で学べる機会を提供することを目的としています。

今年度は、試行的な短期研修プログラム（全8回及びラップアップセミナー。また適宜補講も実施予定。）を開催することとしており、今後に向けての改善意見等を得ることも目的としています。

【受講対象】

文部科学省職員及び政府機関関係者（特に、入省3-5年目程度の方、科学技術系部局に初めて着任された中堅クラスの方を中心に、科学技術イノベーション政策に関する基本的知識を必要とする方を想定。）

【期間】

平成27年11月～平成28年2月（全8回及びラップアップセミナー また適宜補講を実施）

【場所】

文部科学省内の会議室（各回毎にご案内します。）

【参加方法】 講義ごとの登録制

※但し当日の飛入り参加/途中参加も可能です。

【主催】 文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課（担当：小石原）

【協力】 SciREX 基盤的研究・人材育成拠点

総合拠点：政策研究大学院大学（全体オーガナイザー：小山田和仁氏）

領域開拓拠点：東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学、九州大学

文部科学省科学技術・学術政策研究所

科学技術振興機構社会技術研究開発センター

科学技術振興機構研究開発戦略センター

（委託先：三菱総合研究所）

エビデンスベースの政策形成のための科学技術イノベーション政策形成実務研修 2015 全体構成案

- 全回を通じての参加が理想ですが、各回単発の参加でも理解できるように設計しています。
- 講師都合等により、開講時期が前後することがあります。開催日程については、決まりましたら、追ってご連絡いたします。

分類	タイトル	講師(予定)	開催時期	学習の目標(狙い)	内容(予定)
全体像の理解	研修全体の趣旨・目的	赤池伸一氏 (文部科学省) 小山田和仁氏 (政策研究大学院大学)	【開催済】 平成 27 年 11 月 16 日 (月) 18:30- 20:30	研修の趣旨及び政策形成における課題を理解する。	● エビデンスに基づく政策形成の実現のための課題について
	ナショナル・イノベーション・システムと科学技術・イノベーション政策	伊地知寛博氏 (成城大学) 赤池伸一氏 (ファシリテーター)		それぞれ独自の背景を持つ海外事例を参照しながら、説得的に、わが国における政策の在り方を主張できる力を備える。	● イノベーションの概念と政策として重視されるに至った背景、STI 政策の理論的根拠 ● ナショナル・イノベーション・システム(NIS)の構成 ● 日米欧の NIS の特徴と歴史的背景 ● NIS と STI に係る政策形成・行政評価等の枠組み
イノベーションの理解	企業におけるイノベーションと STI 政策	青島矢一氏 (一橋大学) 坂本修一氏 (ファシリテーター)	平成 28 年 2 月 16 日 (火) 18:30- 20:30	企業のイノベーションプロセスを理解し、STI 政策に適用する力を身につける。	● 企業のイノベーションのプロセス ● 企業のイノベーションに対して研究開発や科学的知見が貢献するメカニズム ● イノベーションモデルの歴史的変遷 ● 企業のイノベーションへの政策の貢献 等
	技術分野別のイノベーションの特性と STI 政策	亀井信一氏 (三菱総研)	平成 28 年 2 月 22 日 (月) 18:30- 20:30	技術分野ごとに異なるイノベーションの特徴、基本的な用語の理解を踏まえて、政策立案できる力を備える。	● 分野別のイノベーションの特徴(創業の場合、材料の場合、情報通信機器の場合等) ● 分野別のイノベーションに対する STI 政策の貢献 等
政策の俯瞰的理解	日本の科学技術政策史	國谷実氏 (JISTEC) 吉村哲哉氏 (三菱総研) 坂下鈴鹿氏 (ファシリテーター)	【開催済】 平成 27 年 12 月 7 日 (月) 18:30- 20:30	昔の政策の成り立ちを理解し、現在の政策に生かす知見を身につける。	● 戦前から現代に至るまでの日本の発展の歴史と、科学技術政策の変遷 ● 1980 年代、「基礎研究ただ乗り論」にわが国はどう対応したか 等
	STI 政策における各種制度とその源流	永田晃也氏 (九州大学) 橋本俊幸氏 (ファシリテーター)	【開催済】 平成 27 年 12 月 4 日 (金) 18:30- 20:30	イノベーションの実現に向けて、文科省以外の政策も含めた、具体的な方策を議論できる力を身につける。	● 科学技術イノベーション政策の対象範囲 ● 公共財の理論 ● 科学技術イノベーション政策の体系 ● 研究開発に対する資源配分の最適化／研究開発活動の活性化／研究開発成果の活用・普及
科学と社会・政策	STI 政策とガバナンス	城山英明氏 (東京大学) 斉藤卓也氏 (ファシリテーター)	平成 28 年 1 月 12 日 (火) 18:30- 20:30	適切なステークホルダに働きかけ、政策の実現を進められる力を備える。	● STI 政策のステークホルダ ● 国の政策形成プロセス ● テクノロジーアセスメント ● リスク管理 等
	科学技術統計、科学計量学、経済効果分析における注意点	山野宏太郎氏 (三菱総研) 伊神正貴氏 (NISTEP) 奥篤史氏 (ファシリテーター)	平成 28 年 1 月 29 日 (金) 18:30- 20:30	数字の真の意味を理解し、説得力のある政策形成ができるデータ活用力を身につける。	● 政策立案・戦略策定などに利用可能な科学技術統計データおよび留意点 ● 科学計量学の見方、留意点 ● 経済効果分析の見方、留意点 等

第8講	科学技術と社会	八木絵香氏 (大阪大学) 中川尚志氏 (ファシリテーター)	平成28年 1月20日 (水) 18:30- 20:30	社会に開かれた科学技術に向けた知見を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 科学技術コミュニケーション ● 倫理的・法的・社会的問題(ELSI) ● 事例検討 等
-----	---------	--	--	--------------------------	---

<ラップアップセミナー>

「エビデンスベースの政策形成に向けてー政策形成と政策研究の共進化（仮）」

【主な内容（予定）】

本セミナーでは、研修の学習内容を踏まえ、エビデンスベースの政策立案のための課題についてミニセミナーを実施し、その後、参加者の方からの発表、及び講師と参加者の方とのディスカッションの開催を予定しています。具体的な課題については、研修の際にお知らせします。

また、セミナー開催後、懇親会の開催も予定しております。

【講師（予定）】

有本 建男 政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策研究センター
(SciREX センター) 副センター長

角南 篤 SciREX センター 政策デザイン領域 プログラム・マネージャー

黒田 昌裕 SciREX センター 政策分析・影響評価領域 プログラム・マネージャー

森田 朗 SciREX センター 政策形成プロセス実践領域 プログラム・マネージャー

【日時】

平成28年3月8日（火）

エビデンスベースの政策形成のための科学技術イノベーション政策 実務研修 2015 経済学特別講座

【趣旨】

文部科学省企画評価課では、科学技術イノベーション政策における政策立案の実務に資するため、行政官を対象とし最低限必要となる知識を短期間で学べる機会を提供するため、「エビデンスベースの政策形成のための科学技術イノベーション政策形成実務研修」を試行的に実施している。

本特別講座はこれに連動し、実務研修第7講「科学技術統計、科学計量学、経済効果分析における注意点」のベースとなる経済学の考え方を理解するためのものである。本特別講座においては、政策分析ツール、政策と経済活動の関連等行政官が理解しておくべき基本的な知識を習得し、エビデンスベースの政策形成に必要な基本的考え方を身に付けることを目的としている。

なお各々の講義は単独での参加を妨げないが、3回通して出席することが望ましい。

◆【特講1】政策効果の経済学的アプローチ(1) -経済学・産業組織論入門-

エビデンスに基づく政策の企画立案・評価プロセスの改善と充実を図るため、経済学を用いた政策分析・評価の手法の概要を学習する。また、経済システムとしての政府の役割を分析・評価する産業組織論の概要についても学ぶことも目的とする。

具体的には、政策効果の分析ツールとしての経済学の意義、経済システムのなかの政府の役割とその分析手法、政策効果の分析に必要なデータの取得から分析までの手法論等を取り上げる。政策実務の現場で、研究開発を含む科学技術イノベーション政策についてどのように経済学を活用することが出来るのか示唆を得ることを目指す。

◆【特講2】政策効果の経済学的アプローチ(2) -計量経済学入門-

経済学の中でもデータ分析に特化した計量経済学の概要を理解することに努める。実務で遭遇する様々なデータを用い計量経済学の手法を分析することで、エビデンスベースの政策立案を行う上で留意すべき項目について把握することを目指す。

具体的には、データの取得および加工方法、基本的な統計処理とその解釈の方法、基本的な分析手法、回帰分析、時系列分析などの具体的な政策立案ケースに照らしあわせ取り上げる。これにより、よりデータを「正しく」利用することで、説得力のある政策立案を行うことを可能にすることを目指す。

◆【特講3】政策効果の経済学的アプローチ(3) -国民経済計算とR&D投資効果入門-

国民経済計算(SNA)は、GDPの作成などを含む国の経済の全体像を国際比較可能な形で記録することを目的とした経済指標である。2008年には改訂が行われ、研究開発を資本として明示的に計上されるようになった。

本特講では、研究開発がさまざまな経路を通じて波及効果を及ぼす国内総生産(GDP)の概要およびその改訂内容、およびその理論的側面(各経済成長理論の概要)、これを用いた政策効果シミュレーション手法(公的研究開発投資の経済モデルを用いた評価手法とその経済モデル)の解説などを行う。これにより、公的R&D投資の政策効果を正しく測る上で不可欠な基礎知識を身に付けることを目指す。

【研修の進め方（案）】

【文科省】 全体司会 ・講師等紹介 ・目的説明等	【討論者】 導入説明	【講師】 講義	【討論者、講師 受講生】 討論者とのディスカ ッション 質疑応答
0:05	0:05	1:00	00:20

【コーディネーター】

政策研究大学院大学 専門職 原泰史 氏
科学技術・学術政策研究所 研究員 池内健太 氏

【講師】

特講1：一橋大学経済学研究科 教授 岡室 博之 氏
特講2：一橋大学イノベーション研究センター 特任准教授 北野 泰樹 氏
特講3：一橋大学経済研究所 特任講師 外木 暁幸 氏

【日時】

特講1：平成28年1月28日（木）18:30～20:00 （質疑応答含む）
特講2：平成28年2月（調整中）18:30～20:00 （質疑応答含む）
特講3：平成28年3月24日（木）18:30～20:00 （質疑応答含む）

【場所】 文部科学省内会議室